

編集方針

三井E&Sホールディングスは「社会に人に信頼されるものづくり企業であり続けま

す」という企業理念のもと、ものづくりの力で社会の発展や地球環境の保全に貢献できる企業を目指しています。当社のビジネスモデルや、長期持続的な企業価値向上の実現プロセスをご理解いただくため、2019年度より「三井E&Sグループ統合レポート」を作成しました。

「三井E&Sグループ統合レポート」は、国際統合報告評議会(IIRC)の開示フレームワークおよび経済産業省の価値共創ガイダンスを参考に、企業価値に大きな影響を及ぼす情報を中心に掲載しております。幅広いIR情報やESG関連情報などについては、当社ホームページにおいて網羅的に開示しており、国内外の様々なステークホルダーの方々に当社のユニークなビジネスモデルをご理解いただけるようさらなる進化を目指します。



統合レポートの位置づけ



報告の範囲

対象期間：2018年4月～2019年3月(ただし、一部2019年4月以降の情報を含む)
発行時期：2019年9月

参照したガイドライン

- 環境省「環境報告ガイドライン」
- GRI「サステナビリティ・レポートガイドライン第4版」
- ISO26000
- 経済産業省「価値協創ガイドライン」



三井E&Sホールディングスは、地球規模の課題解決に向けて国連が掲げた国際目標、SDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)に賛同しています。

免責事項

本レポートには、発行時点における計画や見通し、経営計画に基づいた将来の事業活動に関する記述が含まれています。これらの記述は、現時点での情報に基づいており、現時点以降の出来事や環境、予期せぬ事象の発生によって、事業活動の内容が変化する可能性がありますことをご承知おきください。

お問い合わせ先

株式会社三井E&Sホールディングス 経営企画部広報室
お問い合わせフォーム <https://www.mes.co.jp/contact.html>

沿革

1917-



川村 貞次郎

旧 三井物産造船部として誕生

“海国タル吾国ハ、
立国ノ基礎
自然ニ海運ニ帰スルハ
当然ナルニ依リ”

1917年、造船および修繕工場の必要性を痛感した当時の三井物産(株)船舶部長の川村貞次郎は、社長に造船所設置の陳情書を提出します。この熱い思いから三井E&Sグループは始まりました。

1950-



1958年 三井石油化学工業(株)
岩国工場向けNo.1エチレンプラント

事業領域を拡大 — 総合重工業メーカーへの成長

1955年に発足した三井石油化学工業(株)のプラント建設に携わり、石油化学プラント建設に進出します。鉄構部門でも生産体制が確立し、道路橋においては中小橋梁から大型橋梁を受注できるまでに成長します。運搬機では、1961年にアメリカのパセコ社と技術提携契約を締結し、国内外に多くの港湾クレーンを納入。このほか、ヨーロッパの先進技術を導入し、遠心圧縮機、往復動圧縮機部門へ進出。軸流圧縮機や蒸気タービンなども手掛けます。

2000-



320,000重量トン型鉱石運搬船
「ぶらじる丸」

グローバル化への対応 — 持続的成長を目指して

環境対応船・省エネ船需要の高まりに応え、次世代の環境対応・低燃費船や、国際的な排ガス規制に対応した船用ディーゼルエンジンなど、環境対応製品を開発します。絶え間ない技術革新を推し進め、2007年には世界最大級の32万重量トン型鉱石運搬船「ぶらじる丸」を竣工させました。また、2003年7月には、三井海洋開発(株)が当グループとして初めて東京証券取引所に上場を果たします(2004年6月から第一部指定銘柄)。

2018-



三井E&Sグループ統一ロゴマークを策定

次の100年へ — 三井E&Sグループ始動

2017年11月、創業100周年を迎えました。
2018年4月、持株会社制へ移行。グループ経営の深化を加速させるために、船舶事業、機械事業およびエンジニアリング事業を、それぞれ事業会社として分社化しました。合わせて、商号を「三井E&Sホールディングス」に変更し、新生・三井E&Sグループとして新たな一歩を踏み出します。